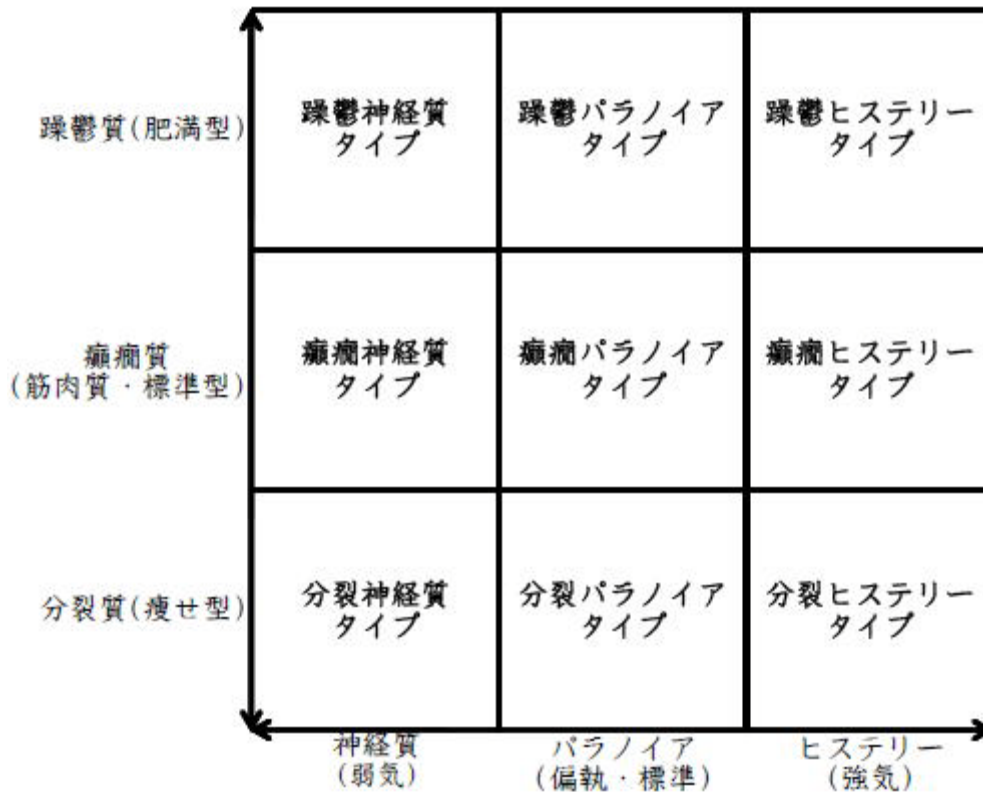


デカルト座標によるクレッチマー分類

桃井富範



デカルト座標に拠るクレッチマー分類概略

性格分類は人をよく知ってその特徴を理解し、よりよい人生を歩む為の技術である。

性格分類はそもそもギリシャ時代医学の祖であるヒポクラテスの血液、粘液、黄胆汁、黒胆汁の四体液説等から既に始まり数千年の変遷を経てクレッチマーの躁鬱質、癲癇質、分裂質にその答えをみだし心理学や精神医学の基礎となった。

しかしながらクレッチマーの性格分類も基礎的に用いるだけでは類型が少なすぎて多様な人間性格の実情の答えにならず論者はその答えになる性格分析を追求していた。

すると人間性格を9種類に分類する実用性が高いがやや科学性に乏しいエニアグラムを参考にして分類に優れた肥満型に多い躁鬱質・筋骨型に多い癲癇質・細長型に多い分裂質のクレッチマー分類と弱気の神経質・中間性質偏執のパラノイア・勝ち気ヒステリーの病理性格分類をベクトル座標分類して統合解析した性格理論がエニアグラムの科学的分類法となりより類型の多い性格分類法に発展するという解となった。

こうして分類に優れた躁鬱質・癲癇質・分裂質のクレッチマー分類と神経質・パラノイア・ヒステリーの病理性格分類をベクトル座標分類して統合し性格判断を作成した。性格

分析の詳細における参考文献は主にデータベースの豊富な鈴木秀子氏のエニアグラムに関する著書を、性格と気質に関しては宮城音弥氏の著書『性格』。どちらも非常に優れた著作なので読本を推奨する。マトリックス作成のヒントを与えて下さった佐藤隆法氏に感謝の意を表す。研究が、いや全ての営みが先人の功績に依るところが多く今研究も『躁鬱質・癲癇質・分裂質のクレッチマー分類と神経質・パラノイア・ヒステリーの病理学分類をエニアグラムと統合しベクトル座標分類を行った性格分析理論』と称する。

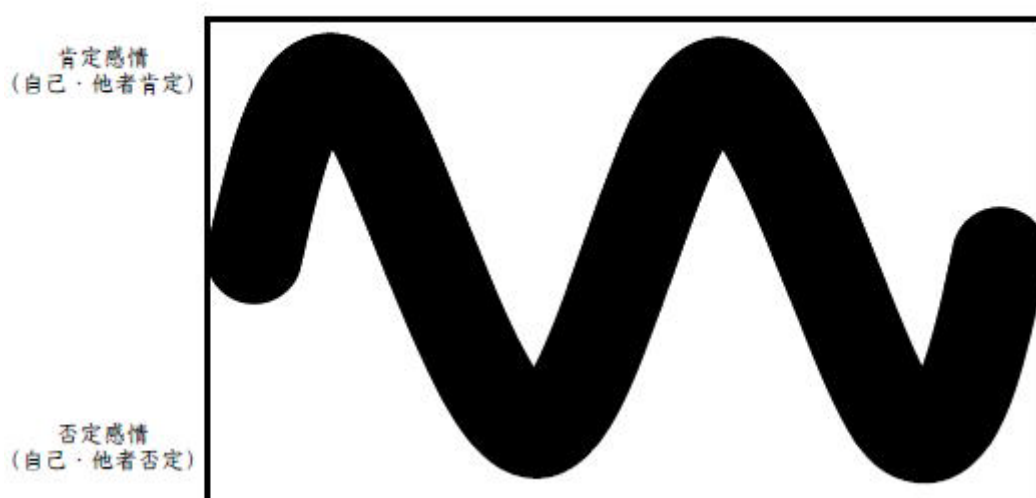
性格分類とエニアグラム分類の性質

クレッチマー分類

○躁鬱質

一般に肥満型に多く善良、温和であるが気分の浮き沈みが多く、愉快的時（躁）と落ち込む時（鬱）が交互に訪れるという特徴がある。行為形式やコミュニケーションを主に感情で行う。

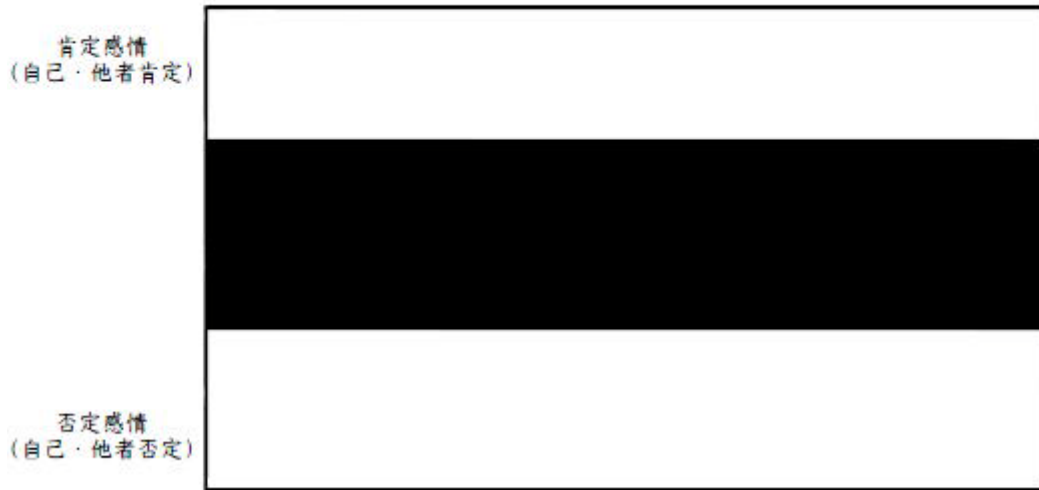
躁鬱気質感情



○癲癇質

一般に中肉、筋骨型で保守と組織型の傾向があり一般に丁寧で義理堅いが時に激怒する傾向がある。行為形式やコミュニケーションを主に本能で行う。

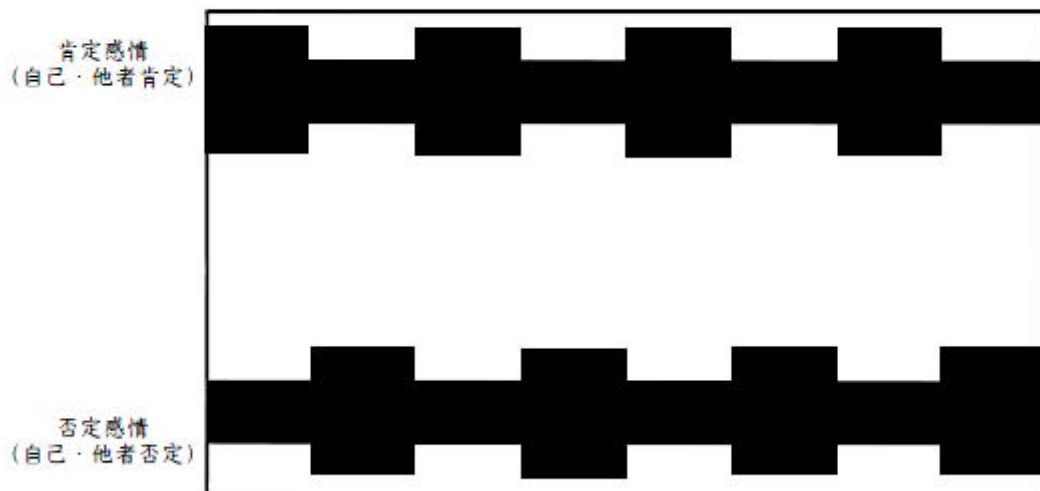
癲癇質感情



○分裂質

一般に瘦せ形で繊細さと鈍感さ、熱狂と冷静など、文字通り性格に極端な両端が内在してスイッチのように頻繁に肯定感情と否定感情が変じる。行為形式やコミュニケーションを主に思考で行う。

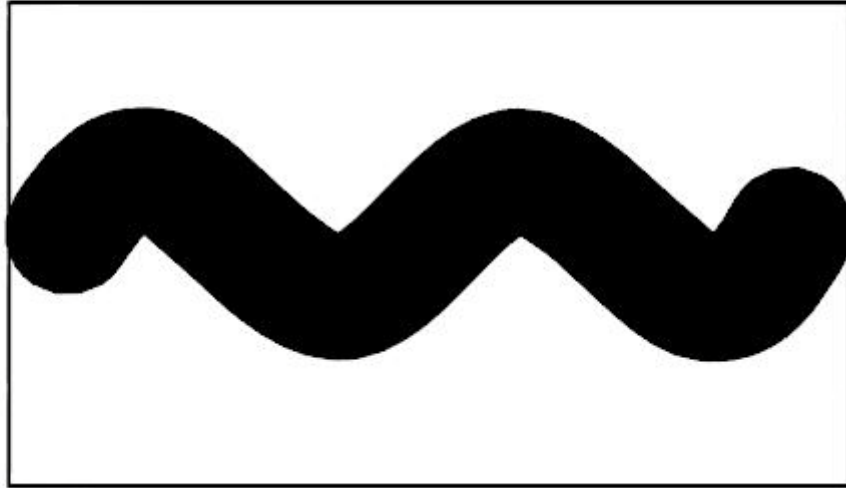
分裂質感情



気質は躁鬱質と癲癇質と分裂質の性格保持の比率と程度により様々な形態に変化する。

躁鬱質癲癇質中間性格感情

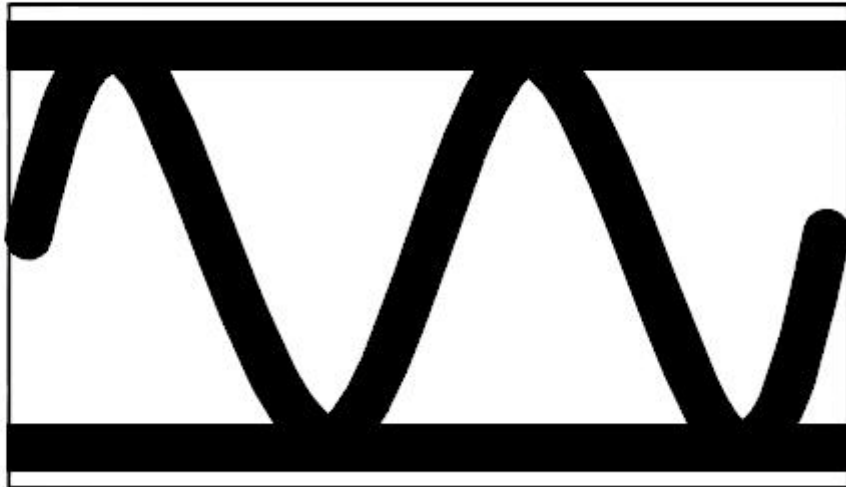
肯定感情
(自己・他者肯定)



否定感情
(自己・他者否定)

躁鬱質分裂質中間性格感情

肯定感情
(自己・他者肯定)

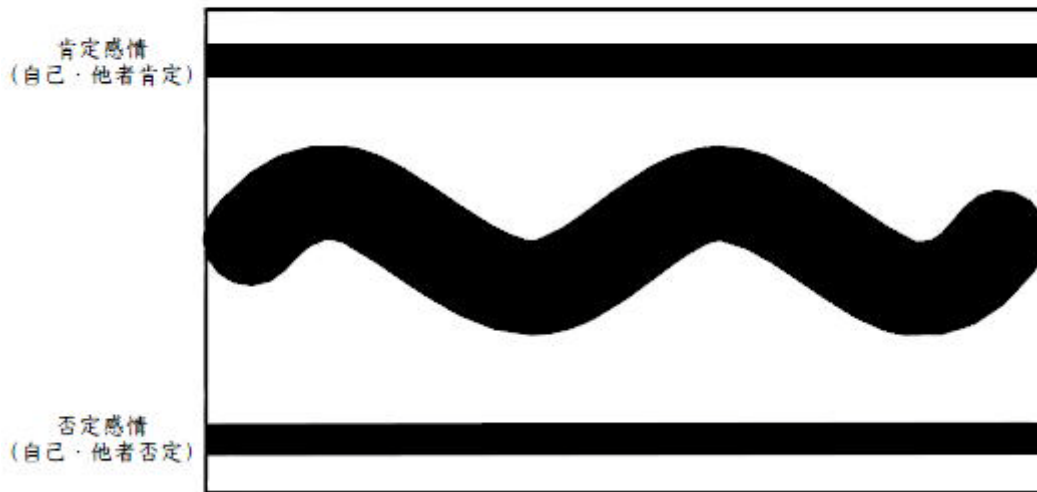


否定感情
(自己・他者否定)

癲癇質分裂質中間性格感情



躁鬱質癲癇質分裂質中間性格感情



病理性格分類

○神経質

内向型で劣等感（不完全感情）が強く、おずおずとしていて強迫観念や恐怖症がある（弱気）。

○パラノイア

中間性格で所属する組織に馴染んでいるが、それが極端になると自我が肥大して自身が所属する組織や自身の考えに執着し非社会型の反応を示す（偏執・標準）。

○ヒステリー

外向型でアグレッシヴ、勝負事を好む傾向があり虚栄心が強い（強気）。

神経質・パラノイア・ヒステリー性格も性格保持の比率と程度により様々な性質を示す。

エニアグラム分類との関連

躁鬱質(肥満型)	タイプ4	タイプ2	タイプ3
癡癡質 (筋肉質・標準型)	タイプ1	タイプ9	タイプ8
分裂質(痩せ型)	タイプ6	タイプ5	タイプ7
	神経質 (弱気)	パラノイア (偏執・標準)	ヒステリー (強気)

○癡癡 神経質タイプ=タイプ1 完全でありたい人

完全を志向し不完全に対する怒りを抱えている人でありながら、組織に忠実であり怒りを回避する人である。組織型であり怒りが特徴という点が癡癡質の気質を、不完全感情が神経質性格を示している。

○躁鬱 パラノイアタイプ=タイプ2 人の助けになりたい人

情が深く人々の手助けをする人であり、相手によって幾つもの自分を演じ分ける人である。情が深いという特徴が躁鬱質の気質を、相手によって自分を変えられるという性質が中間性格であり順応型であるパラノイアの性格を示している。

○躁鬱 ヒステリータイプ=タイプ3 成功を追い求める人

成功するためにいかなる努力も惜しまず、その成功で得られる周囲からの評価や愛情を必要とする人。周囲との関係性を生き甲斐とする特徴が躁鬱質を、成功という外界での成果にこだわる特徴がヒステリー性格を示している。

○躁鬱 神経質タイプ=タイプ4 特別な存在であろうとする人

感性が豊かで思いやりがあるが自分の存在の矮小さを感じていて鬱の状態になりやすい人。感情での行為形式や鬱という状態が躁鬱質の気質を、自身の矮小さを感じる劣等感が神経質の性格を示す。

○分裂 パラノイアタイプ=タイプ5 知識を得て観察する人

知識を蓄えることを好み観察や分析を得意とするが人との交わりによそよそしさがある人。思考で行為を行う点が分裂質の気質を、外界から遠ざかり自身の思考に固執する点と内向外向における中間性質がパラノイアの性格を示す。

○分裂 神経質タイプ=タイプ6 安全を求め慎重に行動する人

安全を求めグループに忠実だが自身を保護する権力に対して恐怖と不信を同時に抱いている人。従順と抗いという思考における両極が分裂質の気質を、常に安全を求める恐怖心が神経質の性格を示す。 1

○分裂 ヒステリータイプ=タイプ7 楽しさを求め計画する人

ポジティブで楽しい計画や語らいを好み周囲に好影響を与えるがやや利己型で苦しみを回避する人。談笑といった思考での交際を好む点が分裂質の気質を、快活な外向性質がヒステリーの性格を示す。

○癲癇 ヒステリータイプ=タイプ8 強さを求め自己を主張する人

正義の為に戦い、度量がありその強さで味方を守るが強さにこだわり敵だと体感した存在に対して非情な人。強さという本能での行為形式が癲癇質を、アグレッシブな外向性質がヒステリー性格を示す。

○癲癇 パラノイアタイプ=タイプ9 調和と平和を願う人

平和主義者で懐が深く周囲に平和と安心の穏やかな環境を整えるが成り行き任せで融通の利かない人。習慣のままに行為する情性の本能型行為形式が癲癇質の気質を、周囲と調和する組織型性質がパラノイアの性格を示す。

躁鬱質・癲癇質・分裂質のクレッチマー分類と神経質・パラノイア・ヒステリーの病理性格分類をベクトル座標で分類した際の重心が中心性格である。但し重心が癲癇質やパラノイアに存在しても癲癇質の比率が低い躁鬱質と分裂質の中間型、癲癇質の比率が低い神経質とヒステリーの中間型であるケースがあるのでその際は躁鬱質と分裂質、神経質とヒステリー性格を照しその中間性格と考えるのが妥当である。

性格の決定因子

先ず躁鬱質・癲癇質・分裂質のいわゆる気質は体型との関連性が高い。そして体型は太りやすい（躁鬱質）、がっしりしている（癲癇質）、食べてもあまり太らない（分裂質）といった風にDNAによってある程度決められている。但しスポーツを続けることで癲癇気質、飽食小食を続けることで躁鬱気質や分裂気質に近づく。

一方の神経質・パラノイア・ヒステリーのいわゆる外向・内向性格はコミュニティにおける役割によってより活発に変化すると思われる。

神経や気を使う作業の際にはより神経質に、周囲との調和を求められる作業の際は中間性格（パラノイア）に、スポーツを行う際にはよりヒステリーにといった具合である。個々の基本性格は幼少、人間最初のコミュニティである家族において補完形成される（つまり家族の性格が自身の性格を決定づけるファクターとなる）と考えられるが近年の脳科学研究ではこのような性格を決定づける器官が明らかにされつつあり、その器官が人によって生まれつき異なることからDNAによる影響も少なからず存在する。しかしながら総合して、

気質の決定因子 = 環境 < 遺伝

性格の決定因子 = 環境 > 遺伝

とすることができるだろう。